



ほんよも No. 013



ゴールデンウィークには読書を！

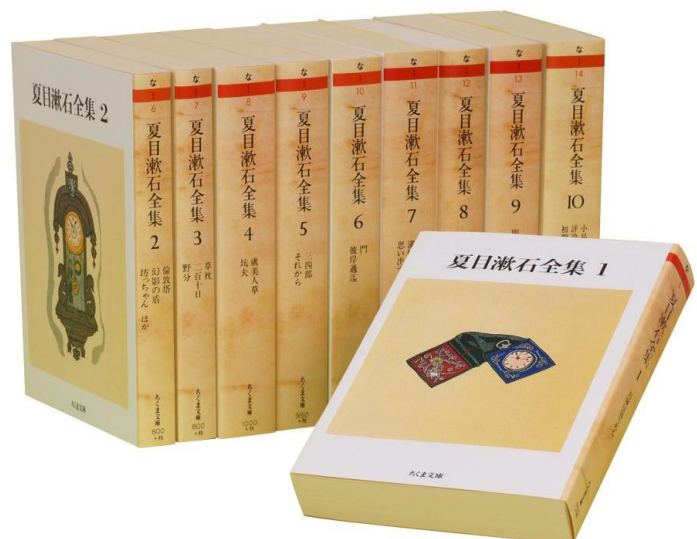
大型連休が近づいてきました。いつもより時間があることと思います。こんな時こそぜひ読書を。



昨年度、図書室では「桂陽図書の100冊」という小冊子を作りました。今ある図書室の蔵書の中から、特に面白いものを100冊厳選して紹介しています。1年生全員には入学式の日に配布させていただきました。本選びの参考にしてください。なお、この「桂陽図書の100冊」は毎年内容を更新します。

〇3年生のみなさんへ

現代文の授業で夏目漱石の『こころ』をやと思います。3月に『夏目漱石全集』を入れました。『こころ』はもちろん、夏目漱石の全作品が収録されています。関心のある方、借りに来てください。今後、芥川龍之介、太宰治、中島敦の全集も入れる予定です。



～終わらないストーカーの恐怖～ 『消えない月』（畑野智美）

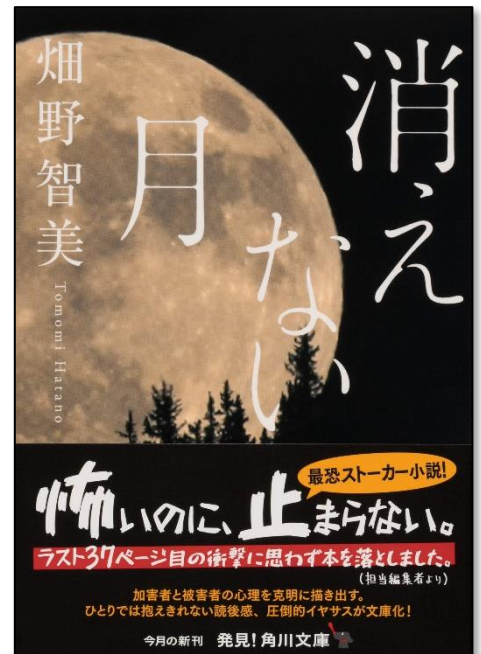
内容・あらすじ

28歳の誕生日を迎えた河口さくらは「福々堂マッサージ」でマッサージ師として働いています。

そのお客さんの中に、いつも彼女を指名してくれる松原という男性がいました。松原は大手出版社勤務で、ベストセラー作家を多く担当しているとのこと。

話が上手で背が高く、ルックスもいい松原に、さくらはほのかな好意を抱いていました。ある日、松原からプレゼントをもらったことがきっかけで、二人は付き合うことに。

しかし、付き合いしていくうちに松原の言動に異常なものを感じたさくらは、彼に別れを告げます。その直後から、松原の恐怖のストーカー行為が始まりました。



川口先生の感想

怖くて怖くて、でも先が気になって気になって、一気に読んでしまいました。

半ば化け物のようなストーカーが出てくる小説はよくありますが、松原はお坊ちゃんオーラがあってルックスもよく、それでいて行動は常軌を逸しています。これがやけにリアルでした。世間を騒がすストーカー事件はこうやって起きるんだろうな、と思います。

さくらの視点と松原の視点、交互で話が描かれるので、ストーカーの心理もよくわかります（理解も共感もできませんが……）。後半に出てくる女性警察官の「ストーカーと運」の話はとてもうなずけました。これはもしかしたら実際に警察の人が言った台詞なのかもしれません。

そして、SNS が網の目のように張り巡らされている現代では、どんなことも調べようと思えば調べられてしまうんだな、と改めて恐ろしくなりました。女子、必読です。